会報

社団法人　日本病理学会
〒113-0033
東京都文京区本郷 2-40-9
ニュー赤門ビル 4F
TEL : 03-5684-6886
FAX : 03-5684-6936
E-mail　jsp-admin@umin.ac.jp
http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会　　第 221 号　　平成 18 年（2006 年）6 月刊

1. 理事会，学術評議員会および総会

平成 18 年 2 月 22 日に東京・学士会分館，および 4 月 29 日に京王プラザホテルにて理事会が開催され，4 月 30 日には学術評議員会・病理専門医部会，5 月 1 日には総会が開かれた。総会の席上で，第 7 回（平成 17 年度）学術奨励賞授賞式が行われた。

これらの理事会，学術評議員会および総会では，理事長，委員会委員長および部会長の報告があった。

協議事項としては，総会においては平成 17 年度事業報告並びに収支決算報告，新名誉会員 32 名の推戴者並びに新学術評議員 33 名の候補者が協議され，それぞれ理事会承認の原案どおり決定した。

このほか，理事会では，常置委員会学術評議員新委員の選出，平成 17 年度下期の新入会員 43 名（年度合計 184 名）が，それぞれ原案のとおり承認された。また，学術奨励賞の副賞である賞金廃止について協議を行った結果，廃止することが決定された。

なお，日本病理学会学術集会改革案についても，理事会・総会にて原案どおり承認されたので後掲する。

また，学術評議員会では，「学術集会のあり方について」（岡田学術委員長），「初期臨床研修における病理研修について」（黒田病理専門医部会長）などが，病理専門医部会では，「病理関係診療報酬の改定について」（黒田病理専門医部会長），「病理科標榜について」（水口病理診断体制専門委員長）など，それぞれ報告・討議が行われた。

2. 学術集会

(1)　第 95 回総会（平成 18 年度）

杏林大学を世話機関として坂本穆彦会長，藤岡保範副会長のもとで，平成 18 年 4 月 30 日（日）～5 月 2 日（火）の 3 日間，新宿京王プラザホテルにて開催された。

宿題報告は，落合淳志部長（国立がんセンター東病院）による「がん微小環境と浸潤・転移機構―臓器特異がん転移機構解明と治療法開発の試み―」，追手　巍教授（新潟大学）による「糸球体腎炎：発症・進展そして糸球体硬化」，山本哲郎教授（熊本大学）による「貪食白血球の浸潤緒パターンを担う新規の白血球走化因子について」の 3 題であった。

特別講演は，金田一秀穂教授（杏林大学）による「ことばは生きている」，E. Dillwyn Williams 博士（University of Cambredge, UK）による「Thyroid carcinogenesis」，小柴昌俊博士（東京大学特別栄誉教授）による「やれば，できる」，Ricardo V. Lloyd 博士（Mayo Clinic College of Medicine, USA）による「THE Present and Future of Pathology In the United States」，Albert Roessner 博士（Magdeburug University, Gremany）による「Topics in gastroenterology」の 5 題，ビギナーのための病理学講座として，町並陸生氏（東京大学名誉教授）による「病理学解剖入門」と田中　昇氏（BML 顧問）による「細胞診入門」が行われた。一般演題は 1,111 題が発表された。

このほかシンポジウム 5 件，ワークショップ 14 件，ランチョンセミナー9 件，イブニングセミナー4 件，コンパニオンミーティング 7 件の発表と討論があった。学生ポスター発表，および学術奨励賞受賞者ポスター発表も行われた。

また，系統的病理診断講習会（骨髄）および臓器別病理診断講習会（小児・肝臓・頭頸部・泌尿器・脳腫瘍・リンパ節・脾臓）が開かれた。

(2)　今後予定されている総会は以下のとおりである。

1)　第 52 回（平成 18 年度）秋期特別総会
　世話機関：和歌山県立医科大学
　代表世話人：覚道健一教授
　会　　期：平成 18 年 11 月 23 日（木）～24 日（金）
　会　　場：ダイワロイネットホテル和歌山

2)　第 96 回（平成 19 年度）総会
　世話機関：大阪大学
　会　　長：青笹克之教授
　会　　期：平成 19 年 3 月 13 日（火）～15 日（木）
　会　　場：大阪国際会議場

3)　第 53 回（平成 19 年度）秋期特別総会
　世話機関：東京医科大学
　世 話 人：向井　清教授
　会　　期：平成 19 年 12 月 6 日（木）～7 日（金）
　会　　場：江戸川区民ホール（タワーホール船堀）

4)　第 97 回（平成 20 年度）総会
　世話機関：金沢大学
　会　　長：中沼安二教授

会　　期：平成 20 年 5 月 15 日（木）～17 日（土）
会　　場：石川県立音楽堂他

3. 理事長報告

長村義之理事長より，秋期総会以降の会務について報告があった。

⑴ 平成 18 年度役員の職務分担について役員会にて決定した。

⑵ 平成 18 年度各種委員会の委員長および委員を決定した。

⑶ （財）日本学術振興会の平成 18 年度科学研究費審査委員候補者データベース登録には，前任の理事，学術委員および研究推進委員の中から，承諾を得られた方を推薦した。

⑷ 日本医学会の用語委員には，坂本穆彦理事(継続)を選出した。

⑸ 日本産科婦人科学会から依頼のあった「卵巣腫瘍取扱い規約」検討委員会病理側委員候補者は，本学会「癌取扱い規約」病理編作成委員会より 4～5 名を推薦してもらうことにした。

⑹ 環境省環境保健部長より，「石綿よる健康被害の救済に係る医学的判定に関する専門家の推薦」の依頼があった。本学会病理専門医が協力することにし，井内康輝教授（広島大学）に専門家の推薦を依頼した。

⑺ アドホック委員会の継続について検討した。「病理専門医の職能に関する小委員会」(堤　寛委員長)は，委員会活動の当面の議論は終了したので一旦廃止することとした。「病理検査技師との関係に関する小委員会」(中島　孝委員長)については，別の形で医療業務委員会のアドホック小委員会として継続していく予定である。これに関連して「病理検査士（仮称）制度」に関する意見書が，田島康夫学術評議員（他 54 名）より提出されたので，受理して，当該の議論の際の資料とすることとした。なお，「病理診断体制専門委員会」（水口國雄委員長）は継続することとした。

⑻ 病理関係診療報酬改定がなされた。全体に医療費削減の中で，ある程度要望が通った内容である。

⑼ 「専門医認定制機構」で本学会専門医制度の現状についてのヒアリングが行われ，高い評価を得た。

⑽ 当面する標榜科，病理の開業，診断施設等については，厚労省，日本医師会等に対して，引き続き働きかけをしている。

⑾ 病理専門医研修新制度の平成 19 年度からの施行にともない，病理専門医研修手帳（案）を近日中にホームページに掲載する予定であり，会員にシミュレーションしてもらい意見を伺うこととした。

⑿ 医療関連死の実施事例が 15 件となった。経費については，剖検の単価として本学会が定めた 25 万円という原則を崩さないよう要望している。

⒀ 死後針組織病理診断（いわゆる「ネクロプシー」）については，剖検情報委員長，医療業務委員長，倫理委員長との間で話し合われ，さらに顧問弁護士の意見も聞いているので，後日，病理学会の見解を発表する予定である。

⒁ 企画委員会では，今後の活動について「当面の課題」「中期的な課題」に分け，各委員からの意見提出を求めて検討が進められている。

⒂ 従来日本病理学会会誌に掲載していた名誉会員の追悼記事については，要請があれば，今後ホームページに掲載することとした。

⒃ 教育委員会では，8 月頃にワークショップを開催する予定である。テーマを「魅力ある病理学をどう若人に伝えるか（仮題）」とした。また，広報用の学生・研修医向けのパンフレットを作成することになった。

⒄ 平成 17 年度後期海外参加支援事業は 5 名の支援を決定した。平成 18 年度の海外交流事業については，会報で告知する。英国病理学会総会（マンチェスターで 7 月 4 日から 6 日まで開催）は，100 周年大会であり，日本病理学会国際交流委員長が窓口となり，両学会合同シンポジウムを開催予定である。

⒅ 遺族との ① 解剖時の組織採取に関する解釈および ② 標本の返還義務に関する解釈について，倫理委員会でまとめ理事会に諮られる予定である。

⒆ 病理学会における個人情報の扱いについて，覚道健一学術評議員，堤　寛理事に検討を依頼している。

⒇ 海老澤達也事務局長の退任にともない，平成 18 年 4 月より，事務局長に大薗いづみ氏が就任した。

4. 各種委員会の活動状況

⑴ 企画委員会（深山正久委員長代理/長村義之理事長）
本学会の活動，機構改革に関して各委員の意見を聞き，まとめたものを常任理事会で検討した。

⑵ 広報委員会（坂本穆彦委員長）
① 本学会ホームページのリンク先はペンディングであったが，当面，関連団体・学会，大学病理学教室とまずリンクを張るほかは委員会で調整しながら対応することとした。
② 会員追悼記事のホームページ掲載については，その要領を検討・作成し，周知することとした。

⑶ 財務委員会（真鍋俊明委員長）
① 平成 17 年度事業報告並びに収支決算書（平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日まで）(案)を承認し，理事会に諮ることとした。なお，終身会費の「病理学学術医療振興医基金」への積立と，一

般会計収入への繰り入れについては，会員に分かり易い形で記録される必要がある。

また，4 月 21 日に監事による監査が実施され，適切に処理されていることが確認された。

② 本学会会員数および病理医数の減少が指摘され，対応策について検討した。

③ 本学会の財産を中長期の展望に立って，常任理事会で検討してほしい旨の要請が出た。

⑷ 学術委員会（岡田保典委員長）

① 「病理学会学術集会改革（案）」を審議・承認し，理事会・総会に諮ることとした。また，具体的な実施事項をについても検討した。

② 秋期学術集会での「病理診断シリーズ」のあり方と，学術集会における宿題報告との関係を検討した。

③ 学術研究賞（A 演説）の応募申請様式を改定する予定である。

⑸ 研究推進委員会（樋野興夫委員長）

① 「第 3 回日本病理学会カンファレンス 2006 東京」は，平成 18 年 8 月 3 日（木）～4 日（金），水月ホテル鴎外荘で実施する。

② 「平成 18 年度病理技術講習会」の世話人は，安井弥教授（広島大学）に決定した。

③ 「第 4 回日本病理学会カンファレンス」および「平成 19 年度病理技術講習会」のテーマと世話人は，近日中に決定する。

⑹ 編集委員会（恒吉正澄委員長）

① 「Pathology International」編集長には，平成 18 年 4 月より高橋雅英教授（名古屋大学）が就任した。2005 年（平成 17 年）同誌の投稿数は前年と比べ 40 編減少し，237 件であった。採択率は 45% 前後，impact factor は現在の 1.1 から 2 以上を目標にする。

② 「日本病理剖検輯報」および「診断病理」の発行は順調である。

⑺ 病理専門医制度運営委員会（黒田　誠委員長）

① 「病理専門医研修手帳」については，本年度は「同（案）」をシミュレーションし，さらに検討後，来年度からの実施に向けて決定していくことにしている。

② 「専門医認定制機構」で本学会専門医制度についてのヒアリングが行われた。試験の実施内容，病理専門医研修指導医・責任者の存在等が高い評価を得た。

⑻ 医療業務委員会（根本則道委員長）

小委員会活動報告については，以下の通りである。

① コンサルテーション小委員会は，腎病理協会から紹介のあったコンサルテーションを受けることとした。精度管理については臓器別に評価の標準化の検討を始めた。平成 17 年度のコンサルテーション件数は 558 件であった。

② 社会保険小委員会は，診療報酬の改定要求を行い，成果があった。

③ 精度管理小委員会は，精度管理実施状況アンケート調査を行い，ダブルチェックの完全実施率については，大学本院 44.4%，分院 18.2%，認定病院 18.6%，登録施設 7.6% であった。

④ 剖検・病理技術小委員会は，病理医適正配置の調査，病理報告書の作成方法，テレパソロジーの状況把握等を行った。

⑤ 癌取扱い規約小委員会は，疾患名，記号等の取扱い規約での統一を図る試みが進行中である。

⑥ 地域病理ネットワーク小委員会は，剖検・病理技術小委員会との連携をとりながら活動している。

⑦ 病理診断体制専門委員会は，厚労省と病院病理の広告，標榜科等について話し合いを行った。

⑼ 口腔病理専門医制度運営委員会（林　良夫委員長代理/長村義之理事長）

口腔病理専門医受験資格への臨床研修期間 1 年の導入に際して，口腔病理専門医制度諸規定の整備を行っている。

⑽ 教育委員会（堤　　寛委員長）

① 病理学教育を考えるワークショップは，今年度も行う予定である。

② 典型例の病理画像のホームページ化を図りたい。

③ 病理医のニーズ，魅力をまとめた「病理医を目指そう！（仮題）」（小冊子）を作成することとした。

⑾ 国際交流委員会（笹野公伸委員長）

委員会では，以下の事項を承認した。

① 平成 17 年度海外病理学会参加支援事業（後半分）は，日野るみ，平林健一，井野元智恵，木村美葵，小川史洋の 5 名の会員を推薦し，理事会に諮ることとした。

② 平成 18 年度本学会会員海外派遣事業は，渡航期間 2 週間程度を 1 週間程度に短縮し，海外病理学会への参加期間を含んでもよい（海外病理学会参加支援事業とは当該年度内では重複させない）こととし，理事会に諮ることとした。平成 19 年度海外病理学会からの会員招へい事業および平成 18 年度海外病理学会参加支援事業の各募集事項は，例年通り継続する。

③ 日独病理学会交流事業は，現在，2 回目の交流事業が進められているが今後も原則的には継続する。なお，この事業については，日独病理学会での合

同シンポジウム（現行の「日英」と同様）の開催とすることも考えている。

⑿ 支部委員会（小川勝洋委員長）

① 臨床研修制度に伴うCPCの実施状況について，各支部でも調査に協力することにした。

② 病理医適正配置に関連して，医療業務委員会と連携して各支部で病理医の業務内容・量等を調査することとした。

5. 平成17年度事業報告並びに決算報告

平成17年度事業報告並びに収支決算報告が以下のとおり承認された。

⑴ 平成17年度事業報告

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

I. 学術集会，研究会等の開催

1. 学術集会の開催

⑴「第94回日本病理学会総会」（於横浜市・長村義之会長）を開催

⑵「第51回日本病理学会秋期特別総会」(於東京都・深山正久代表世話人）を開催

2. 研究会，講習会等の開催

⑴「第3回日本病理学会カンファレンス（2005道後)」を実施

⑵ 細胞診講習会（於広島市）を実施

⑶ 病理診断講習会（於横浜市）を実施

⑷ 病理技術講習会（於東京都）を実施

⑸ 各支部会における「学術・研修集会」等を実施

3. 市民公開フォーラム（於横浜市）を開催

II. 学会誌，学術図書等の発行

1.「日本病理学会会誌」(第94巻第1〜2号)を発行

2.「Pathology International」(第55巻第4〜12号，第56巻第1〜3号)
を発行

3.「診断病理」(第22巻第2〜4号，第23巻第1号)を発行

4.「日本病理学会会報」(第207号〜218号)を発行

5.「病理専門医部会報」(2005年第2〜4号，2006年第1号）を発行

III. 研究および調査

1.「日本病理剖検輯報」 第46輯(平成15年症例)を発行

2. 剖検輯報編集方法を変更・充実

3. 剖検記録データベースを再構築

IV. 病理専門医等の資格認定

1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験（於東京都）を実施

2. 病理専門医を広告

3.「病理専門医研修ガイドライン」を改定

4. 研修施設を認定

V. 学術団体との協力，連絡

1. 他学会との会議共催および後援(国内)を多数実施

2. 腫瘍取扱い規約（甲状腺，副腎腫瘍等）を改訂

3. 海外病理学会との交流

⑴ 英国病理学会との会員の相互派遣，学術交流を実施

⑵ ドイツ病理学会との学術交流を実施

VI. その他目的を達成するために必要な事業

1. 日本病理学会学術奨励賞を5名に授与

2. 本学会会員の海外派遣者1名を決定，前年度派遣者からの報告

3. 病理学教育ワークショップ（於東京都）を実施

4. 病理診断コンサルテーションシステムを充実

5. インターネットホームページを充実

6. 医師賠償責任保険加入取扱いを実施

7. 病理専門医制度運営，口腔病理専門医制度運営，医療業務等の各種委員会を開催

⑵ 平成17年度収支決算報告

1) 収支計算書

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

（単位 円）

科 目	予算額	決算額	差 異
I. 収入の部			
1. 基本財産運用収入	**3,000**	**298**	**△ 2,702**
受取利息収入	3,000	298	△ 2,702
2. 会費収入	**79,680,000**	**75,721,000**	**△ 3,959,000**
正会員・学術評議員会費	31,000,000	31,723,000	723,000
同終身会費	7,000,000	5,400,000	△ 1,600,000
同一般会員会費	30,000,000	26,548,000	△ 3,452,000
学生会員会費	30,000	15,000	△ 15,000
賛助会員会費	350,000	250,000	△ 100,000
機関会員会費	500,000	445,000	△ 55,000
病理専門医部会員会費	10,800,000	11,340,000	540,000
3. 事業収入	**113,700,000**	**124,874,286**	**11,174,286**
学術集会収入	68,000,000	83,828,610	15,828,610
論文掲載料収入	3,000,000	2,749,864	△ 250,136
広告料収入	2,000,000	999,600	△ 1,000,400
刊行物発行収入	17,500,000	15,275,400	△ 2,224,600
専門医制度収入	15,700,000	14,294,000	△ 1,406,000
病理専門医部会収入	4,500,000	4,006,250	△ 493,750
講習会等収入	1,500,000	436,000	△ 1,064,000
賠償責任保険事務費収入	1,500,000	3,284,562	1,784,562
4. 補助金収入	**10,800,000**	**11,600,000**	**800,000**
学術振興会科学研究費	10,600,000	11,400,000	800,000

日本医学会補助金	200,000	200,000	0
5. 雑収入	**662,000**	**1,506,495**	**844,495**
受取利息収入	12,000	4,043	△ 7,957
雑収入	650,000	1,502,452	852,452
当期収入合計（A）	**204,845,000**	**213,702,079**	**8,857,079**
前期繰越収支差額	**39,758,000**	**49,350,378**	**9,592,378**
収 入 合 計（B）	**244,603,000**	**263,052,457**	**18,449,457**

（単位　円）

科　目	予算額	決算額	差　異
II.　支出の部			
1. 事業支出	**162,650,000**	**167,430,840**	**4,780,840**
学術集会経費	70,000,000	85,525,160	15,525,160
学会誌発行経費	38,000,000	36,485,733	△ 1,514,267
会報発行経費	3,500,000	3,540,600	40,600
剖検輯報刊行経費	18,000,000	13,671,459	△ 4,328,541
専門医制度運営経費	10,800,000	7,755,390	△ 3,044,610
病理専門医部会経費	11,500,000	5,512,300	△ 5,987,700
支部運営経費	3,350,000	5,850,000	2,500,000
学術奨励等経費	3,000,000	4,600,000	1,600,000
講習会等経費	2,000,000	935,387	△ 1,064,613
各種委員会経費	2,500,000	3,554,811	1,054,811
2. 管理費	**32,670,000**	**32,487,093**	**△ 182,907**
人　件　費	15,500,000	16,264,980	764,980
福利厚生費	1,600,000	1,968,425	368,425
交　通　費	700,000	682,560	△ 17,440
通信運搬費	2,500,000	2,870,274	370,274
会　議　費	1,000,000	690,284	△ 309,716
印　刷　費	2,400,000	1,550,519	△ 849,481
備　品　費	200,000	0	△ 200,000
消 耗 品 費	300,000	412,141	112,141
光　熱　費	230,000	216,453	△ 13,547
賃　借　料	2,800,000	2,547,936	△ 252,064
諸　会　費	950,000	800,000	△ 150,000
補　助　金	200,000	700,000	500,000
修　繕　費	100,000	0	△ 100,000
嘱　託　料	1,490,000	1,459,500	△ 30,500
租税公課（消費税等）	2,200,000	1,862,700	△ 337,300
雑　　費	500,000	461,321	△ 38,679
3. その他	**7,800,000**	**17,320,998**	**9,520,998**
退職給与引当預金支出	1,500,000	1,500,000	0
学術医療基金引当預金	6,300,000	15,820,998	9,520,998
繰入支出他			
4. 予備費	**1,000,000**	**0**	**△ 1,000,000**
当期支出合計（C）	**204,120,000**	**217,238,931**	**13,118,931**
当期収支差額（A-C）	**725,000**	**△ 3,536,852**	**△ 4,261,852**
次期繰越収支差額（B-C）	**40,483,000**	**45,813,526**	**5,330,526**

2）　正味財産増減計算書

平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日まで

（単位　円）

科　　目	金　　額		
I.　増加の部			
1.　資産増加額			
当期収支差額	△ 3,536,852		
給与引当預金積立金額	1,500,000		
学術医療基金引当預金積立額	15,820,800		
国際交流基金引当預金積立額	198	13,784,146	
2.　負債減少額			
増加額合計			**13,784,146**
II.　減少の部			
1.　資産減少額		0	
2.　負債増加額			
退職給与引当金繰入額	1,500,000	1,500,000	
減少額合計			**1,500,000**
当期正味財産増加額			12,284,146
前期繰越正味財産額			200,601,005
期末正味財産合計額			**212,885,151**

3）　貸借対照表

平成 18 年 3 月 31 日現在

（単位　円）

科　　目	金　　額		
I.　資産の部			
1.　流動資産			
現金預金	102,036,250		
前 払 金	387,691		
立 替 金	2,290,000		
未 収 金	2,451,350		
流動資産合計		**107,165,291**	
2.　固定資産			
基本財産	30,000,000		
その他の固定資産			
特別財産	136,056,668		
保 証 金	930,000		
退職給与引当預金	11,200,000		
什器備品	84,957		
その他の固定資産合計	148,271,625		
固定資産合計		178,271,625	
資産合計			**285,436,916**
II.　負債の部			
1.　流動負債			
前受金	49,232,000		
未払金	11,963,005		
預り金	156,760		
流動負債合計		61,351,765	
2.　固定負債			
退職給与引当金	11,200,000		
固定負債合計		11,200,000	
負債合計			**72,551,765**

III. 正味財産の部			
正味財産			**212,885,151**
(うち基本金)			(30,000,000)
(うち正味財産当期増加額)			(12,284,146)
負債及び正味財産合計			**285,436,916**

4) 財産目録

平成 18 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科目	金額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金預金			
現 金 現金手許有高	260,813		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	99,845,195		
普通預金	1,700		
三菱東京 UFJ 銀行本郷支店			
定期預金 みずほ銀行本郷支店	23,351		
信託預金 三菱信託銀行本店	215,909		
郵便振替貯金	1,689,282		
現金預金合計	102,036,250		
(2) 前払金			
家賃	195,300		
会費金融機関自動振替手数料	192,391		
前払金合計	387,691		
(3) 未収金			
学会誌発行収入等	2,451,350		
(4) 立替金			
P.I. カラー頁印刷費	2,290,000		
流動資産合計		107,165,291	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	30,000,000		
三菱東京 UFJ 銀行本郷支店			
(2) その他の固定資産			
① 特別財産			
学術医療基金引当預金	116,015,482		
(普通・三菱東京 UFJ 銀行春日支店)			
国際交流基金引当預金	20,041,186		
(普通・りそな銀行本郷支店)			
特別財産合計	136,056,668		
② 保証金	930,000		
③ 退職給与引当預金	11,200,000		
④ 什器備品	84,957		
その他の固定資産合計	148,271,625		
固定資産合計		178,271,625	
資産合計			**285,436,916**

科目	金額		
II. 負債の部			
1. 流動負債			
(1) 前受金			
平成18年度会費・部会費等	49,232,000		
(2) 未払金			
英文誌印刷費等	6,025,000		
日病会誌印刷費・発送手数料	4,917,255		
会報印刷費	120,750		
未払消費税	900,000		
未払金合計	11,963,005		
(3) 預り金			
源泉所得税	156,760		
流動負債合計		61,351,765	
2. 固定負債			
(1) 退職給与引当金	11,200,000		
固定負債合計		11,200,000	
負債合計			**72,551,765**
正味財産			**212,885,151**

6. 新名誉会員の推戴について

平成 18 年度における新名誉会員は，下記の 32 名が推戴された。

(ABC 順)

海老原善郎	今井 三喜	倉田 明彦	正山 尭
円山 英昭	泉 春暁	松本 道男	住吉 昭信
福島 祥紘	蟹澤 成好	水島 睦枝	高橋 正倫
福島 昭治	川村 貞夫	村上 俊一	打越 敏之
後藤壽美子	川生 明	室谷 光三	宇多 弘次
林 豊	北村 幸彦	大脇 祐治	宇井 嗣郎
日合 弘	小泉富美朝	佐藤 方信	山際 裕史
平林 紀男	国島 睦意	白澤 春之	吉木 敬

7. 学術評議員の決定について

平成 17 年度新学術評議員は，下記の 33 名に決定した。

(ABC 順)

阿部 康人	阿保亜紀子	相島 慎一	千葉 英樹
橋本 優子	伊東 恭子	加藤 裕也	木藤 克己
小森 隆司	三上 哲夫	永井雄一郎	内藤 愼二
中山 崇	西山 憲一	小柳 清光	尾崎 敬
三枝 信	桜井 礼	下山 英	下山田博明
潮見 隆之	鈴木 宏明	鈴木 理	田中 敏
田沼 順一	田代 敬	氏平 伸子	和仁 洋治
渡辺 純	八木橋法登	山本智理子	山崎 文朗
叶 春霖			

8. 平成 17 年度学術奨励賞の授与について

平成 18 年 5 月 1 日の総会席上，長村理事長から，第 7 回

(平成 17 年度) 学術奨励賞受賞者　長谷川秀樹 (国立感染症研究所), 岩下寿秀 (愛知医科大学), 小林基弘 (信州大学), 大上直秀 (和歌山県立医科大学), 坂谷貴司 (金沢大学), に賞状および記念品が授与された。

9. 学術集会改革案について

学術・研究推進合同委員会にて検討してきた標記改革案について,理事会および総会 (平成 18 年 5 月 1 日) にて承認されたので以下に掲載する。

「経緯」

日本病理学会学術委員会と研究推進委員会の合同委員会において,「春期･秋期学術集会のあり方」に関して 6 回にわたり審議し, 3 項目からなる「病理学会学術集会改革案」をまとめ, 平成 17 年 4 月に開催された第 94 回日本病理学会時の理事会での審議を経て, 学術評議員会と総会において本案を学会員に提示してきました。その後, より広く学会員の意見を聞くために, 病理学会各支部とホームページで本案を提示し,アンケート調査を行いました。本アンケートでは, 3 項目の提案に対して, いずれも 50%以上の支持をいただきましたが, 同時にいくつかの貴重なご意見をいただきました (アンケート結果に関してはホームページをご覧下さい)。その後, これらの意見を反映した修正案について, 学術・研究推進合同委員会と理事会で審議し, さらに理事会アドホック委員会, 学術・研究推進委員会および理事会での審議を経て, 以下の最終改革案としてまとめました。

「目的」

日本病理学会は,「病理学に関する学理及びその応用についての研究の振興とその普及を図り, もって学術の発展と人類の福祉に寄与する」ことを目的としており, 学術集会においては,「病理学に関わる学会員が研究発表と意見交換を通して持続的な後継者の育成をするとともに, 病理学に関する最新情報の収集を行う」ことを目指しております。一方, 病理学が対象とする分野は広く, 基礎研究においては様々な研究手段や技術を包含するのみならず, 病理診断の精度向上は社会的要請として日本病理学会に課せられています。日本病理学会はこれら多種多様な分野に対応し, それを連結すると共にそれぞれの分野を発展させていくべき義務があると言えます。医療への貢献については, 他学会においても同様で, 新たな医学と医療の発展に寄与するとともに, 医療の質を担保する専門医制度と一般会員の医療レベルの向上に多くの時間と労力を払うべく改革が進められているのが現状です。

日本病理学会では,約 50 年前に春期と秋期の 2 学術集会制を導入してきました。しかし, この間の学問・技術の進歩による研究活動の深化と拡散化,業務の拡大や専門化,支部活動の活性化, 学会・研究会の増加などにより, 学会員の学術集会に求めるところも変化し, いくつかの問題が顕在化してきました。たとえば, 春期学術集会については, 系統的病理診断講習会・臓器別病理診断講習会と一般講演が並列されており研究発表と講習会の一方にしか参加できなくなっていることやシンポジウム・ワークショップの乱立・多会場化など, また, 秋期学術集会では参加人数は春期学術集会の 1/2～1/4 と少ないことなど, があげられます。そこで, これらの諸問題を現時点で少しでも改善し, 学会員が等しく求める「学術研究活動の発表・意見交換」と「診断病理に関する最新情報の収集」を乖離することなく保証するという立場から, 下記の学術集会改革案を提案いたします。それらの骨子は, (1) 病理学に関わる学会員の学術成果の発表の場を保証し, 発表を通して若手研究者・病理医の育成を行う, (2) 蓄積された完成度の高い研究成果を聞くとともに, 中堅クラスの発表を聞き育成･激励する, (3) 病理診断に関する講習会を通じて診断精度の維持・向上と新知識の習得を保証し, 国民の期待を担える病理診断医育成を図るとともに, 基礎病理学的研究と診断病理学的知見を結びつける研究の推進と発表を促進する, ことなどにあります。

「改革案」

(1). 春期学術集会: 春期学術集会の学術プログラムが研究と病理診断などのバランスの取れた内容とするため,「系統的病理診断講習会･臓器別病理診断講習会」とシンポジウム, ワークショップ, 一般発表演題との重なりを少なくする。そのために「病理診断講習会」を病理学会の事業として明確に位置付けし, その運用方法を定め, 病理診断講習会委員会は学会長と密接な連携により, その内容の充実を図る。また,宿題報告は 1 会場で行い plenary を維持する。

(2). 秋期学術集会:「学術研究賞 (A 演説) (7-8 件)」と「診断シリーズ (2 件)」は 1 会場で行い plenary を維持するが,「シンポジウム」,「B 演説」,「病理診断講習会」,「教育講演」,「公募演題」などを複数会場にて適宜導入可とし, 世話人の自由度を広げる。また, 秋期学術集会の参加単位数を 10 点から 20 点に上げることを提案する。病理技術講習会, IAP 教育セミナーなどとの効果的な連動を引き続き協議してゆく。

(3). 学術集会プログラム統一性の確保: 春期学術集会会長および秋期学術集会世話人の立候補者は, 学術集会プログラムの統一性の確保や類似プログラムの反復・乱立の回避などのため, プログラム内容や企画方針などの要件を含んだ応募申請書を提出し, プログラム推進委員会はその内容につき整理し, 理事長に報告する。

10. 役員一覧（平成 18 年 4 月現在）

(1) 理事および監事

（任期：平成 18 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

理 事 長	長村　義之
副理事長・常任理事	岡田　保典
副理事長・理　　事	深山　正久
常任理事	真鍋　俊明
常任理事	黒田　　誠
理　　事	青笹　克之
理　　事	林　　良夫
理　　事	樋野　興夫
理　　事	井内　康輝
理　　事	中島　　孝
理　　事	中沼　安二
理　　事	根本　則道
理　　事	小川　勝洋
理　　事	坂本　穆彦
理　　事	笹野　公伸
理　　事	澤井　高志
理　　事	居石　克夫
理　　事	恒吉　正澄
理　　事	堤　　寛
監　　事	松原　　修
監　　事	手塚　文明

(2) 支部長

（兼務　任期：平成 18 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

北 海 道	小川　勝洋
東　　北	澤井　高志
関　　東	中島　　孝
中　　部	中沼　安二
近　　畿	青笹　克之
中国四国	井内　康輝
九州沖縄	居石　克夫

11. 各種委員会の委員構成（平成 18 年度）

委員の一部に交代があり，委員会の構成は以下のとおりとなった。

1. 企画委員会
   深山正久（委員長），岡田保典，真鍋俊明，黒田　誠，坂本穆彦，堤　　寛，笹野公伸，中島　孝，中沼安二
2. 広報委員会
   坂本穆彦（委員長），岡田保典，真鍋俊明，黒田　誠，深山正久，林　良夫，小川勝洋，恒吉正澄，堤　　寛，藤井丈士，望月　眞，谷山清己
3. 財務委員会
   真鍋俊明（委員長），岡田保典，黒田　誠，深山正久，坂本穆彦，笹野公伸，恒吉正澄
4. 学術委員会
   岡田保典（委員長），真鍋俊明，黒田　誠，深山正久，坂本穆彦，青笹克之，林　良夫，樋野興夫，居石克夫，落合淳志，坂元亨宇，山本哲郎，高橋雅英，立松正衛，高松哲郎，当該年春期総会会長(中沼安二)，当該年秋期特別総会世話人（向井　清）
4-2. 学術奨励賞選考委員会
   樋野興夫（委員長），青笹克之，中沼安二，小川勝洋，居石克夫，恒吉正澄，岡田保典，堤　　寛，黒田　誠
5. 研究推進委員会
   樋野興夫（委員長），深山正久，岡田保典，中山　淳，笹栗靖之，北川昌伸，白井智之，高橋雅英，安井　弥
6. 編集委員会
   恒吉正澄（委員長），深山正久，坂本穆彦，真鍋俊明，岡田保典，樋野興夫，根本則道，堤　　寛，高橋雅英
6-2. Pathol Int 常任刊行委員会
   高橋雅英(委員長)，秋山　太，藤本純一郎，原田孝之，廣瀬隆則，今北正美，井内康輝，石田　剛，岩崎　宏，城　謙輔，前田　盛，森永正二郎，向井　清，中里洋一，野口雅之，落合淳志，岡田保典，岡安　勲，坂元亨宇，笹野公伸，佐藤雄一，清水道生，白井智之，堤　雅弘，堤　　寛，横山繁生，吉野　正
6-3. 剖検情報委員会
   根本則道（委員長），藤原　恵，市原　周，楠美嘉晃
7. 病理専門医制度運営委員会
   黒田　誠（委員長），根本則道，堤　　寛，笹野公伸　橋本　洋，清水道生，田村浩一，森谷卓也，仁木利郎，梅村しのぶ，石黒信吾，森永正二郎，坂本穆彦
7-2. 病理専門医試験委員会
   清水道生（委員長），田村浩一，長谷川匡，杉谷雅彦，福永真治，中谷行雄，坂元亨宇，安田政実
7-3. 病理専門医資格審査委員会
   森永正二郎(委員長)，森谷卓也，安田政実，中村栄男，中村眞一，八尾隆史
7-4. 病理専門医施設審査委員会
   橋本　洋（委員長），石黒信吾，石田　剛，岩田　純，佐藤昌明，都築豊徳
7-5. 「診断病理」編集委員会
   坂本穆彦（委員長），蛇澤　晶（副），小松明男（副），笹島ゆう子(副)，向井萬起男(副)，若林淳一，江村　巌，内藤善哉，白石泰三，寺田信行，吉野　正，横山繁生(以上支部編集委員)
7-6. 病理専門医部会会報編集委員会
   清水道生（委員長），堤　　寛（副），望月　眞（副），三代川斉之，岩間憲行，梅村しのぶ，全　　陽，

冨田裕彦，藤原　恵，小田義直

7-7. 病理診断講習会委員会
清水道生（委員長），森谷卓也，横山繁昭，増田友之，船田信顕，白石泰三，小西　登，吉野　正，竹屋元裕

8. 医療業務委員会
根本則道（委員長），真鍋俊明，中島　孝，澤井高志，廣川満良，湊　　宏，大橋健一，松野吉宏，清水道生

8-2. コンサルテーション小委員会
森永正二郎（委員長代行），手島伸一，加藤良平，松野吉宏，田中祐吉

8-3. 社会保険小委員会
稲山嘉明(委員長)，佐々木 毅，逸見明博，熊坂利夫，大倉康男，横山宗伯，森　正也（顧問：原　正道，斉藤　澄，水口國雄）

8-4. 精度管理小委員会
羽場礼次（委員長），鬼島　宏，長嶋洋治，大林千穂，清水禎彦，和田　了，柳井広之

8-5. 剖検・病理技術小委員会
谷山清己（委員長），万代光一，明石　巧，筑後孝章，長谷川剛，仲里　巌，山城勝重，柳井広之

8-6. 癌取扱い規約小委員会
坂本穆彦（委員長），伊藤以知郎，森永正二郎

8-7. 地域病理ネットワーク小委員会
井内康輝（委員長）

8-8. 病理診断体制専門委員会
水口國雄（委員長），羽山忠良，小松明男，大橋健一，嶋田裕之，田村浩一，安田政実

9. 口腔病理専門医制度運営委員会
林　良夫（委員長），根本則道，井上　孝，出雲俊之，小宮山一雄，朔　　敬，高田　隆，山口　朗

9-2. 口腔病理専門医試験委員会
高田　隆(委員長)，小宮山一雄，朔　　敬，山口　朗，井上　孝

9-3. 口腔病理専門医資格審査委員会
朔　　敬（委員長），高田　隆

10. 教育委員会
堤　　寛（委員長），青笹克之，井内康輝，羽場礼次，伊藤浩史，鬼島　宏，下　正宗，田村浩一

11. 国際交流委員会
笹野公伸（委員長），根本則道，荒川　敦，福永真治，三上芳喜，長嶋洋治，梅村しのぶ

12. 支部委員会
小川勝洋（委員長），澤井高志，中島　孝，中沼安二，青笹克之，井内康輝，居石克夫

13. 倫理委員会
井藤久雄（委員長），岡崎悦夫，武村民子，堤　　寛，増井　徹(外部委員)，中島みち(外部委員)，宇都木伸(外部委員)

14. リスクマネージメント委員会
井内康輝(委員長)，野々村昭孝，長村義之，坂本穆彦，児玉安司（外部委員）

15. 医療関連死関係専門委員会
黒田　誠（委員長），深山正久，真鍋俊明，森　茂郎，根本則道，野口雅之，岡崎悦夫

12. 会員の訃報

以下の方がご逝去された。

石倉　　浩　学術評議員（平成 18 年 5 月 27 日ご逝去）
田内　　久　名誉会員（平成 18 年 6 月 7 日ご逝去）
松井　克明　名誉会員（平成 18 年 6 月 12 日ご逝去）

お知らせ

1. 平成 18 年度上原賞（研究業績褒賞）受賞候補者の推薦について

申込み締切り：平成 18 年 9 月 8 日
連絡先：（財）上原記念生命科学財団　事務局
〒 171-0033　東京都豊島区高田 3-26-3
TEL：03-3985-3500　FAX：03-3982-5613
E-mail：uehara-f@jade.dti.ne.jp

Pathology International 編集室移動のお知らせ

2006 年 7 月 1 日より Pathology International 編集室が Blackwell Publishing 社内へ移動します。

Pathology International 編集室
ブラックウェルパブリッシング（内）
〒 102-0072　東京都千代田区飯田橋 3-11-14　GS Chiyoda ビル 5F
TEL：03-5215-3051
FAX：03-5215-3052
Email：pin@blackwellpublishing.co

2006 年度

病理学教育セミナーのお知らせ

IAP 日本支部主催，日本病理学会後援

日　時：平成 18 年 11 月 25 日（土）9：00〜17：15
場　所：和歌山県立医科大学（和歌山市）
世話人：覚道健一（和歌山県立医科大学病理学第二講座）

教育シンポジウム　9：00〜12：00
主題：前立腺生検標本の Gleason score
モデレーター：白石　泰三（三重大学大学院医学系研究科病態解明医学講座腫瘍病態解明学分野）

1. 泌尿器は Gleason score をどのように利用しているか
   内田　克典（三重大学大学院医学系研究科病態解明医学講座腫瘍病態解明学分野）
2. 前立腺針生検標本の鏡検・診断方法と鑑別診断
   鷹橋　浩幸（東京慈恵会医科大学第三病院病理部）
3. Gleason 分類の歴史的変遷と今後の課題
   原田　昌興（神奈川県立がんセンター顧問）
4. 2005 年 consensus conference による Updated Gleason score について
   都築　豊徳（名古屋第二赤十字病院病理部）
5. 症例供覧　一般病理医間で再現性の低い症例を中心に
   小塚　祐司（三重大学大学院医学系研究科病態解明医学講座腫瘍病態解明学分野）

◎当日はご自由にご参加下さい。（会場費 3,000 円，ハンドアウト代含む）その時に病理専門医の更新に必要な参加証をご用意いたします。5 単位が得られます。

スライドセミナー　　13：00〜17：15

1 時限目　　13：00〜15：00

＊A-1	軟部腫瘍	橋本　洋（産業医科大学第一病理学）
B-1	乳腺疾患の病理	秋山　太（癌研究所病理部）
C-1	非腫瘍性リンパ節病変	小島　勝（群馬県立がんセンター臨床検査）
D-1	子宮の腺系病変：診断の pitfall	清川　貴子（東京慈恵医大病院病理部）

2 時限目　　15：15〜17：15

＊A-2	皮膚付属器腫瘍	清水　道生（埼玉医科大学病理学）
B-2	尿路の腫瘍性病変	金城　満（新日鐵八幡記念病院病理部）
C-2	上部消化管の腫瘍性病変	二村　聡（福岡大医学部病理学）
D-2	肝臓の小結節性病変の病理	中沼　安二（金沢大形態機能病理学）

＊印は新規のものです。

病理専門医の資格更新単位として 10 単位が得られます。
別添葉書にて申し込み下さい。定員超過コースは抽選となります。
受講料：1 コース IAP 日本支部会員 6,000 円，非会員 8,000 円です。

連絡先：IAP 日本支部教育委員長
〒 173-8610　東京都板橋区大谷口上町 30-1
日本大学医学部病理学講座
根本　則道
TEL　03（3972）8111（内）2256

IAP 日本支部事務局
〒 359-8513　所沢市並木 3-2
防衛医科大学校病理学第二講座
松原　修
TEL　04（2995）1507